2017年3月1日発行（毎月1回1日発行）No.987号

JA全農えひめ情報

みぐりーど

3

2017・March

■特集

「農業者所得増大チャレンジ事業」の取り組み状況②〈園芸部〉

JA全農えひめ
もっと近くに。

愛媛の酒蔵めぐり 21

桜うづまき

▶立岩川近くの一角に、道を挟んで蔵と事務所が林立する

桜うづまき酒造株式会社

代表銘柄	桜うづまき
創　業	1871年（明治４年）
代 表 者	代表取締役　篠原　成昌
住　所	松山市八反地甲71
ＴＥＬ	089-992-1011

▲（右）「桜うづまき　にごり酒」。冷やしてすっきり、温めれば麹の香も楽しめる。一口飲めば癖になる酒
（左）「純米吟醸　桜風（おうふう）」。地元の山田錦を50％に精白、自社酵母でじっくりと低温発酵させた風味豊かな酒。淡泊な和食との相性は格別

明治４年創業の桜うづまき酒造は合併や社名変更を繰り返して生産量を増やし、昭和40年から現社名となり、現在は日本酒、焼酎、発酵調味料を製造しています。

桜うづまき酒造の酒造りは地元とともにあります。仕込み水は高縄山の伏流水、酒造好適米の山田錦は地元・北条立岩地区の契約栽培米です。酒の味は瀬戸内海の幸と調和した、口当たりの良いさわやかな旨口です。販売網も地元中心、味の変化を敏感に見極める「桜うづまき」ファンも数多く、「うれしくもありがたいお客様のおかげで、気が抜けない酒造りに精進できています」と現代表の篠原成昌さん。普通酒のシェアが多いながらも、純米や大吟醸など特定名称酒、すなわちこだわりの造りへとシフトをしているところです。

そんな中で夏の暑い盛りの仕込みを終えて９月発売の新酒「にごり酒」は看板商品といえるほどの人気商品です。口当たりやさしく、超甘口ながら、甘さが尾をひかないさらりとした飲みやすさで、女性層や、あまりお酒を飲まない方も待ち焦がれるお酒です。

焼酎では、県内のはだか麦、里芋、つぐね芋、レンコン、蚕豆など、ご当地焼酎を製造し、生産者の方々からも喜ばれています。

JA全農えひめ情報

あぐり～ど

March 2017

C O N T E N T S

農の風景Vol.195
愛媛の酒蔵めぐり㉑～桜うづまき酒造株式会社

2 〈特集〉「農業者所得増大チャレンジ事業」の取り組み状況②〈園芸部〉
重点品目を中心に生産性・品質・収量等の向上と低コスト化・販売強化を進める

8 THE・ねっとわーく

9 統計BOX

10 ふるさと ESSAY VOL.263
柔道場「棟田武道館」
棟田　利幸さん

12 TOPIC NEWS

16 READERS通信
NOW NOW COOKING
〈今月の素材〉レタス

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- ○営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- ○安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- ○地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙

冬ごもりをしていた動物たちは春めく陽気に誘われて、元気に外へ飛び出していきます。食欲旺盛なウサギの親子はやわらかな春キャベツが大好物、放し飼いのニワトリもヒヨコとなかよくお散歩へ。花々は次々と咲き誇り、子どもたちの笑い声が広がる庭の風景も華やいでいます。さぁ、私たちも重いコートを手放して、冬から春へと脱皮をしていきましょう。

●表紙：ウサギと春キャベツ
はら　ふみ（イラストレーター）

※『あぐり～ど』は、「愛媛農業（Agriculture）」を「リード（Lead）する」という意味と「心を一つにする（Agreed）」という意味を込めています。

JA全農えひめ

ホームページ
http://www.eh.zennoh.or.jp

■JA全農えひめ「えひめの食」企画
http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/
※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆㈱えひめ飲料
http://www.ehime-inryo.co.jp

◆JAえひめアイパックス㈱
http://www.iyokkora.jp/

◆JAえひめ物流㈱
http://www.jat-ehime.co.jp/

◆JAえひめフレッシュフーズ㈱
http://fresh-ranran.jp/

◆㈱ひめライス
http://www.himerice.jp/

◆JAえひめエネルギー㈱
http://www.ja-ehimeene.co.jp

特集

重点品目を中心に生産性・品質・収量等の向上と低コスト化・販売強化を進める

ＪＡ全農えひめは、ＪＡグループ自己改革の最重点実施分野である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」（共通目標：販売品取扱高の拡大）の実現に向けて、耕種事業において、「農業者所得増大チャレンジ事業」を展開しています。

前回は営農食糧部の取り組みを紹介しましたが、今回は生産基盤の脆弱化に対応して果樹・野菜花卉の生産振興と販売拡充を進める園芸部の取り組みを紹介します。

〈果実課の取り組み〉

生産量維持、反収・正品率向上等の生産対策と販売対策を通じて温州みかんをはじめ果樹産業の活性化を推進

近年、県内の果樹産業は、高齢化及び後継者問題に伴う担い手不足、地球温暖化による異常気象等の影響により、各産地では生産基盤が脆弱化し、特に南予中心に中山間地が多く面積及び生産量は減少傾向が顕著になってきています。

これらの状況を踏まえ、果実課（果実チーム）では、かんきつ類、その中でも本県の基幹品目である温州みかんについて、近年他の主産県の和歌山県及び静岡県は平均反収２ｔ以上をキープしているのに対し、本県は２ｔを割り込む結果（表１）に着目し、重点振興・対策品目として生産振興と販売対策の両面で取り組みを進めています。

重点取組事項・実行具体策

（１）生産振興対策

①放任園、加工誘導対策事業などを活用する他、県域での労働力支援対

策の確立・強化により、生産量の維持に取り組みます。

◇温州みかん栽培面積＝〈平成27年産〉4,679ha→〈平成30年産〉4,352ha

◇県下10ＪＡへの労働力支援等の積極的な支援（「生販マッチング・担い手支援要領」の活用）

②温州みかんは、ＪＡ全農えひめの「高品質果実生産支援事業」、肥料農薬部門と連携した土壌改善の取り組み等を通じて、品質及び正品率の向上を図ります。

◇マルチ被覆及びフィガロン散布による、着果量の調整と生育後期（浮皮防止対策含む）の品質向上。

◇温州みかん出荷量＝〈平成27年産〉48,000t（4,679ha×反収1.9t×正品率55%）→〈平成30年産〉60,000t（4,352ha×反収2t×正品率69%）（図2）

③極早生温州みかんは、栽培面積10%の削減と優良系統への更新を図ります。

④各種部会での生産対策の徹底により、生産振興及び生産量の維持につなげていきます。

（2）販売対策

①温州みかんは、「果実需給調整対策事業」を活用し、下等級品の市場隔離や輸出事業に取り組みます。

②企画販売による販路拡大及び有利

図１　農業者所得増大チャレンジ事業【果実】
平成２８年度～３０年度目標・計画

■品目・目標

◎重点振興品目：温州みかん・伊予柑・愛果28号・柚子・栗

◎最重点対策品目：温州みかん・キウイ

■取組計画

＜生産対策＞

・放任園対策、加工誘導対策事業等の活用、県域での労働力支援対策の確立・強化への支援により生産量の維持を図る。

・温州みかんは、高品質果実生産支援事業の活用、肥料農薬部門との連携により、有機質・微量要素等の効果的な土壌診断を行い、土壌改善による品質及び正品率（反収）の向上を図る。

・マルチ被覆、フィガロン散布による生育後期の浮皮対策等品質の向上。

・各種部会での生産対策の徹底による生産振興を図る。

①温州みかん面積：4，679ha（H27）　→　4，352ha（H30）

②極早生面積削減：　722ha（H27）　→　　698ha（H30）

＜販売＞

・企画販売による販路拡大及び有利販売とギフト企画を主体とした県産品の販売拡充を図る。

・特定期間に集中した店頭試食宣伝販売の展開やマスコミ等へのPR記事掲載による消費、販売量の拡大を図る。

・選果設備の老朽化による県下JA間での将来的な広域選果について主体的に誘導する。

①温州みかん販売量：27年産48，000t（4，679ha×1．9t/10a×正品率55%）

30年産60，000t（4，352ha×2．0t/10a×正品率69%）

表１　温州みかん反収推移

反収　　単位：kg

年	静岡	和歌山	広島	愛媛	福岡	佐賀	長崎	熊本
H5	2,116	2,507	1,873	2,223	1,788	1,886	2,068	1,510
H10	2,323	1,914	1,719	1,916	1,663	1,611	1,498	1,154
H15	2,104	2,387	1,741	2,224	1,996	1,874	2,137	1,691
H20	1,990	2,200	1,240	1,850	1,560	1,540	1,470	1,420
H21	2,220	2,560	1,620	2,170	2,280	2,150	2,000	1,810
H22	1,960	1,950	1,020	1,610	1,460	1,220	1,440	1,520
H23	2,240	2,310	1,450	2,210	1,800	1,940	1,570	1,650
H24	2,210	2,140	1,100	1,920	1,720	1,700	1,770	1,940
H25	2,200	2,300	1,910	2,130	1,950	2,050	1,840	1,980
H26	2,280	2,230	1,220	1,890	2,050	2,070	1,950	2,250
H27	2,055	2,039	1,666	1,994	1,665	1,770	1,718	1,832

図２　温州みかん反収及び正品率向上対策

・反収及び正品率の向上

H27実績　約48,900ﾄﾝ＝4,679ha×1.9ﾄﾝ/反×正品率55%

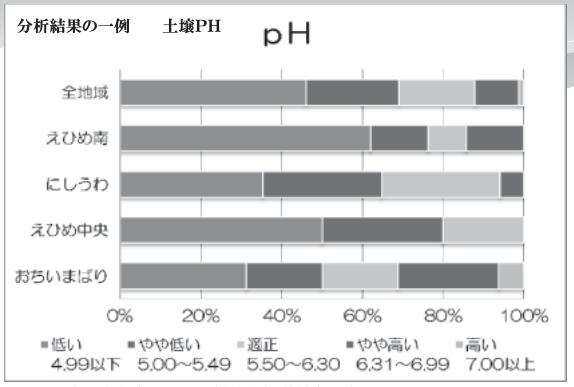
◆反収1.9ﾄﾝから2.0ﾄﾝへUP！

◆正品率55%から69%へUP！

H30目標　60,000ﾄﾝ＝4,352ha×2.0ﾄﾝ/反×正品率69%

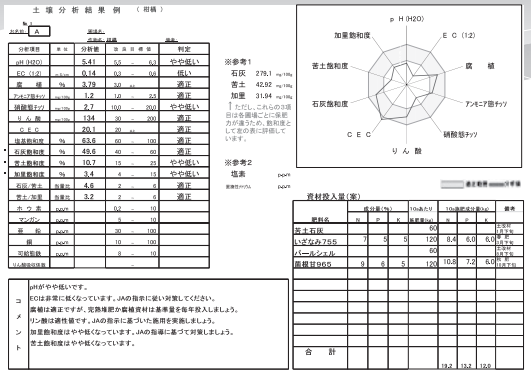
ジベレリンやフィガロン等の散布を推進・指導し、浮皮軽減・着色促進等により反収及び正品率向上を図る

図３　温州みかん反収及び正品率向上対策



※9/2果実生産部会・10/14果樹技術指導員会公表

図４　個別の処方箋（土壌診断結果）に基づく温州みかん反収及び正品率向上対策



販売とギフト企画を柱とした県産品の販売拡充を進めます。

③特定期間に集中した店頭試食宣伝販売の展開やマスメディア等へのＰＲ記事掲載により、消費・販売拡大に努めます。

④県下ＪＡ間での広域選果について主体的に誘導します。

28年度取り組み状況

（1）極早生温州みかんの栽培面積10％削減

ＪＡ全農えひめ果実生産部会等で優良系統への更新を含め、改植・高接ぎ努力目標面積を設定して推進を進めてきました（1割削減：26年産776ha→29年産目標698ha）。その結果、自然減の影響もあって平成28年産は、677ha（26年産比13％削減）と既に29年産目標を達成しています。しかしながら、一部の主産ＪＡでは、進捗率が低いところがあるため、今後も積極的な推進を図っていく必要があります。

（2）温州みかんの反収及び正品率向上対策

温州みかんの反収及び正品率向上対策では、特定園地を継続的に土壌診断する定点分析を実施することとし、ＪＡ全農えひめ肥料農薬課と連携して、調査点数100点（主要4ＪＡで1ＪＡ当たり20～30点）の実施に向けて計画提案を行い、28年度は合計74点（ＪＡえひめ南21点、ＪＡにしうわ17点、ＪＡえひめ中央20点、ＪＡおちいまばり16点）の定点調査を実施しました。

その結果、地域差はあるものの、全地域土壌pH平均では、適正より低い割合が5割近くで、やや低いと合わせると適正値を下回っている地点が7割近くになりました（図3）。またその結果を踏まえ、他の各詳細な項目別の診断結果に基づく処方箋について、昨年11月にＪＡごとに説明し、改善に向けて生産現場への効果的なフィードバックを図りました（図4）。

単年度の調査結果ではあるものの、以上の結果から近年、各主要産地では土壌pHがやや酸性化傾向にあるため、土壌診断結果に基づいた石灰資材及び腐食有機物資材等の施用を行い、土壌環境の改善を図り適正pH値（5・5～6・3＝弱酸性）の維持が重要となります。定点化による土壌診断については、数年の追跡調査による診断結果の積み重ねが重要であり、効果的な土壌環境の改善の

ためにも、４ＪＡで29年度以降も継続実施していきたいと考えています。

（３）温州みかんの樹勢回復・着果確保対策

温州みかんの樹勢回復及び着果確保対策では、昨年11月と２月に開催した果実生産部会で、時期別の生産対策リーフレットを作成・配付し、収穫後の液肥散布による樹勢回復、石灰及び堆肥資材投入による土壌環境の改善、樹体に応じた適正な整枝剪定の実施、発芽期以降の芽かき、かぶさり枝除去等による効果的な着花確保、開花前後の液肥散布による花芽の充実と結実促進、着花不足樹の効果的な剪定及び摘果による品質向上対策等の指導推進を図りました。今後も各年度の作柄、園地及び樹ごとの状況に応じたタイムリーな指導対応の取り組みにより、高品質安定生産を図っていきます。

（４）販売対策

企画販売では、ＪＡ全農えひめ直販課でギフト企画「ぷちみかん」の積極的な商談・推進を行い、約11万ケースの販売につなげ、販路拡大及び県産品のＰＲと消費拡大を図ることができました。

輸出事業については、温室みかんの台湾・香港等への販売、極早生みかんのカナダ向け販売のほか、紅まどんな・はれひめ・富有柿のシンガポール等への販売に取り組みました。

また、消費・販売拡大に向けて、各関係機関と連携した店頭試食宣伝販売、マスメディア等を通じたＰＲ、愛媛みかん大使キャンペーン、オレンジロード企画、みかん祭りなど、効果的な消費宣伝・販売促進活動に取り組んでいます。

29年度についても28年度の取り組み内容と結果を踏まえ、引き続き温州みかんをはじめ重点振興品目の生産量維持、品質および正品率（反収）向上を重点に効果的な取り組みを実践するとともに、キウイ等落葉果樹品目も含めてさらに踏み込んだ形で対応し、県内果樹農業の振興及び活性化に取り組んでいきます。

〈野菜花卉課の取り組み〉
共同荷造り・広域選果・土地利用型推進のモデル実証を通じてコスト削減と面積拡大に取り組む

愛媛県内の野菜の作付面積・出荷数量は生産基盤の脆弱化により減少傾向にあることから、生産振興が喫緊の課題となっています。野菜花卉課（野菜花卉チーム）は、農業者所得増大チャレンジ事業で掲げた「マーケットインにもとづく生産・販売事業方式への転換」「トータルコスト低減等の実践」に向けて、①共同荷造りモデル（レタス＋枝豆）、②広域選果モデル（里芋）、③省力化・機械化一貫体制による土地利用型推進モデル（加工玉ねぎ中心）の３つの経営モデル実証に取り組んでいます。

（１）共同荷造りモデル（レタス＋枝豆）

共同荷造りモデルでは、１圃場の年間有効利用と品目組み合わせによる農家所得確保として、枝豆の作付面積拡大とレタス１ha農家×10戸を目標にしています。中予地区２ＪＡの枝豆・レタスを共同選果・荷造りを行うことにより、生産者の自家選別の省力化と選果場の作業性向上に

よるコスト低減をはかり、面積拡大につなげていきます。

枝豆は、7～8月上旬にJA全農えひめ直販課でバラ集荷し、JAえひめ中央選果場へ袋詰めを作業委託しました。これまで直販課で手詰めした場合とコスト比較した結果、約20円／袋の削減につながりました。

今後は、出荷資材の統一化とロット集約を進め、さらなる選果作業の効率化とコスト低減をめざしていきます。

レタスは、生産者のラップ・荷造り作業軽減のため、JA全農えひめ直販課と連携し、11月からストリッププレタス（ラップ包装をしていないレタス）を集荷し、量販店対応や加工業務事業者への契約的販売をしています。今後は、ラップ機2台をJA選果場等にレンタルし、ストリッププレタスの共同ラップ・荷造りを行い、コスト検証を進めていきます。

生産資材においても、生産者の出荷調整作業の軽減・栽培大規模化に

図5　農業者所得増大チャレンジ事業
平成28年度～30年度 生産振興方針【野菜花卉】

1. 生産面積維持拡大（水田フル活用対策）、省力化とコスト支援
マーケットイン（販売先要望）に基づく生産振興
(1) 大型選果機共同利用型
里芋生産振興目標　126ha　共販率向上による3，100t集荷
(2) 個選共販共同荷作り型
レタス+枝豆の収益モデル実証
レタス資材代を枝豆でカバー。セット推進し、収益確保を目指す
レタス+枝豆の出荷労力の軽減モデル（共同荷造り）による大規模農家の育成
(3) 土地利用型
加工業務用野菜生産面積拡大（玉ねぎ中心）
省力化（生産指導と併せた施肥防除、反収向上対策）及びコスト支援（新規作付苗助成：生販マッチング要領の活用）

図6　農業者所得増大チャレンジ事業
平成28年度～30年度 販売方針【野菜花卉】

1. 多元的販売の拡充、生産振興につながる販売企画提案
2. 加工業務需要の拡充及び買取など直販センター機能活用
3. 生産流通体制の効率化
東予地区里芋をスタートとして広域選果体制を確立（販売価格UP、流通コスト削減）
(1) 里芋の販売目標：反収3．5t　共販率向上により3，100t集荷
ア．集荷規格の拡大により、集荷率・反収向上及び収入確保
イ．袋詰め、むき里芋の販路拡充（高付加価値商材提案）
ウ．業務・加工筋（惣菜コーナー）への供給
(2) レタス・枝豆の出荷調整作業の省力化対策（共同荷造り）

図7　農業者所得増大チャレンジ事業
平成28年度～30年度目標【野菜花卉】

モデル内容	取組目標
共同荷作りモデル実証 （枝豆＋レタス）	H30年度　10ha レタス1ha農家×10戸
広域選果モデル実証 （里芋）	H28年度目標　面積110ha　数量2，800t H29年度目標　面積126ha　数量3，000t H30年度目標　面積126ha　数量3，100t
省力化・機械化一貫体制による土地利用型推進モデル実証 （加工玉ねぎ）	H28年度目標　面積13ha　数量　780t H29年度目標　面積15ha　数量　900t H30年度目標　面積18ha　数量1，080t

ともなう価格メリットの還元を追求することで、枝豆＋レタスの経営モデル確立に取り組んでいきます。

（2）広域選果モデル（里芋）

平成27年度から東予地区４ＪＡがＪＡうまの選果場２か所を「ＪＡ愛媛広域さといも選果場」として里芋の選果を行っており、各ＪＡが参加する作業班会等を通じて課題への対応を協議するとともに、作業軽減・コスト低減等の実証試験を行っています。

平成28年度は、ＪＡ間の輸送容器試験（フレキシブルコンテナの活用）、チャーター便活用による輸送試験を行い、選果場の作業軽減や輸送コストの削減において一定の成果がありました。選果経費については、引き続き広域選果によるスケールメリットを検証していきます。

販売面では、広域選果により「伊予美人」ブランドとして、品質の均一化と数量の確保ができるため、販売先からも評価を受けています。近年「食の外部化」「調理の簡便化」による〝剥き里芋〟の需要が増加しています。加工業務事業者へ優Ｓ等の下位等級品の原料供給や新規に規格外品を集荷・販売することで、高付加価値商品への対応を進め、農家所得の向上につなげています。

生産面では、平成28年産の作付面積は計画１１０haに対し、１２５ha（前年比１１５％）となり、今後も拡大をしていく一方、病気の発生による収量低下や優良種子の継続的確保、出荷調整時の株の分離作業軽減が課題となっています。防除については、登録薬剤がないため、情報収集に努めています。優良種子の確保については、県・ＪＡとも連携し、生産地区以外での種子圃場の設置を進めています。分離作業軽減については、収穫分離機の改良をメーカーと協議し、機械化一貫体制を構築していきます。

また、平成30年度の新広域選果場設置に向けて、関係各所との取り組みをスピードアップしていきます。

（3）省力化・機械化一貫体制による土地利用型推進モデル（加工玉ねぎ中心）

加工業務用野菜に取り組むにあたっては、省力化、反収の向上、コスト低減があげられます。玉ねぎは、生産段階での機械化一貫体制は構築されているものの、収穫後の乾燥場所・乾燥機の設置・作業労力が課題となっています。生産者個人ですべて賄うには負担が大きいため、大規模化に向けた共同乾燥を検討していきます。

加工玉ねぎの平成28年産は、計画面積13haは確保したものの、べと病の発生や生育不良の影響により、数量は２７０ｔと計画を大きく下回りました（計画比35％）。平成29年産については、計画面積15ha以上の確保ができています。今後は、機械化によるコストと栽培規模を検証し、経営モデルを構築していきます。

THE ねっとわーく

果実課

愛媛いよかん大使が消費宣伝キャンペーンを実施

ＪＡ全農えひめ果実課は、全国生産量の９割を占める愛媛いよかんの本格販売にあたり、今年も愛媛いよかん大使による消費宣伝キャンペーンを実施しました。

キャンペーンのスタートにあたり、１月27日には、ＪＡ全農えひめの菅野幸雄運営委員会会長と愛媛いよかん大使４人が愛媛県の中村時広県知事を表敬訪問しました。

愛媛いよかん大使４人は、消費宣伝キャンペーンにあたって、「『色よし、味よし、香りよし』三拍子そろった美味しい愛媛の伊予柑を一人でも多くの方に召し上がっていただけるようＰＲしてきます」「農家が丹精込めて作られた愛媛いよかんの美味しさと魅力を全国の皆様に一所懸命ＰＲしてきます」「伊予柑を食べて心も体も健康になっていただけるよう精いっぱいＰＲしてまいります」「全国の皆様に『愛媛いよかん＝いい予感』を届け、一人でも多くの方に笑顔になっていただけるように４人で力をあわせて頑張ります」と決意表明。中村知事に愛媛いよかんを贈呈しました。試食した中村知事からは、「今年は酸抜けも良くて美味しい。これは良い、いける。自信を持ってＰＲしてください」「柑橘王国愛媛の中でも、年明けの中晩柑の代表は伊予柑です。適度な酸味があって香りも良い伊予柑には多くのファンがいます。体調を万全にしてその素晴らしさを多くの方にアピールしてください」と激励を受けました。

キャンペーンは毎年行っており今回が41回目。大使らは、１月21日～22日の「第39回えひめみかん祭り」で活動した後、１月30日から２月６日までのべ８日間、大阪・神戸・東京・札幌の４都市を回り、市役所・市場への表敬訪問、店舗でのＰＲ販促活動、さっぽろ雪まつり会場での無料配布などの消費宣伝活動を行い、質・量とも日本一の愛媛いよかんをアピールしました。

なお、県内ＪＡの伊予柑出荷計画量（１月10日時点）は、約２万１、７６０ｔ（前年比96％・前々年比１０４％）。ＪＡ全農えひめ果実課は、高品質果実の厳選出荷・計画出荷の徹底、独自の果実需給調整対策とともに、２月上・中旬の出荷ピークにあわせてＳＰ（セールスプロモーション）レディによる店頭試食宣伝販売活動を積極的に実施しました。

▲中村知事（中央）に愛媛いよかんを贈呈

▲大阪の市場では中村知事のトップセールス

▲さっぽろ雪まつり等のイベントや量販店店頭試食宣伝を実施

知って得する

統計BOX

農業産出額からみた愛媛の野菜

ー農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)結果からー

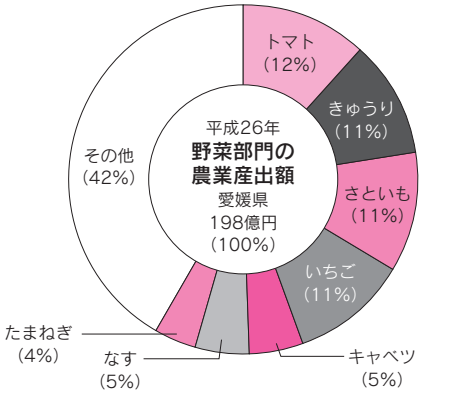
今月は、2月号でとりあげた農業産出額のうち、部門別では果樹（40％）、畜産（24％）に次いで県内の16％を占める野菜に着目し、上位に位置する個別主要品目についてみてみましょう。なお、個別品目（50位まで）の産出額は27年分はまだ未公表ですので26年産データからの引用となります。

野菜部門の農業産出額1位はトマト

図1は平成26年農業産出額のうち、野菜部門（198億円）の個別品目構成比です。

野菜は、愛媛県内各地で数多くの品目が栽培されています。果樹部門のみかんのように突出したものはありませんが、内訳を見ると、トマトが12％（23億円）、きゅうり、さといも、いちごが同率の11％（21億円）となっており、愛媛県野菜の4傑といえます。5位以下には、キャベツやなす、また、その他には東予地方の特産となっているアスパラガス、やまのいも、中予地方のピーマン、そらまめなどが含まれています。

図1　農業産出額（野菜部門）品目別構成割合



注：小数点以下を四捨五入しているため合計と内訳は一致しない。

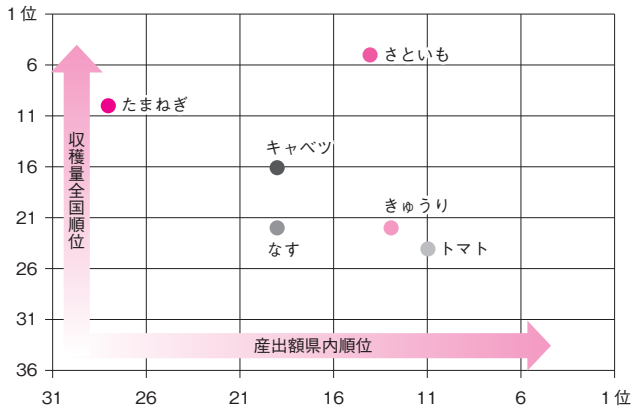
さといも収穫量は全国5位、産出額は県内14位

図2は主要野菜の県内産出額順位と、全国での収穫量の順位を表したものです。横軸に県内のかんきつ、米、畜産などを含む全品目のなかでの野菜個別品目の産出額順位を、縦軸に主要野菜の収穫量の全国順位をとっています。

農畜産物全体で県内産出額11位のトマトは収穫量が全国で24位、同じくきゅうりは産出額13位、収穫量22位、さといもは産出額14位、収穫量5位、キャベツは産出額18位、収穫量16位などとなっています。

なお、いちごの産出額は県内15位となっていますが、平成26年は収穫量調査を行っていないため図には表示していません。

図2　平成26年主要野菜の農業産出額及び収穫量順位



県内の野菜は、果樹（19、000ha）、水稲（15、000ha）に次ぐ5、170ha(注)の作付面積があり、県内農業産出額の16％を占めるとともに、主要野菜の収穫量は全国の中堅に位置するなど、愛媛県農業をささえる中核となっています。

注：平成26年農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率結果による。

中国四国農政局愛媛支局　統計チーム

柔道場「棟田武道館」

今年・平成29年9月1日、我が棟田武道館はちょうど20年となります。

20年前に石井北小学校の横に道場がありました。我が息子・康幸も幼稚園から通っていた道場です。その道場が一身上の都合で閉めることとなり、引き継いでくれないだろうかと相談を持ちかけられました。石井地区唯一の道場であり、閉場により100人近くの生徒たちが路頭に迷い、柔道をあきらめざるを得なくなります。

我が家で家族会議が開かれました。幸いにも私には親の土地があり、そこに新しく道場を建設したい、と。とはいえ、膨大な額の借金を背負うことになります。当時私は公務員であり、指導に携わることはできても、運営等は父親に任せることになります。引き受けたい気持ちとはうらはらに、現実的にはシビアな問題が山積みでしたが、渋っていた母が首を縦に振り、理解を示してくれました。今にして思えば、中学から東京へ柔道留学をしていた私の息子がだんだんと強くなり、柔道を応援したいと思う気持ちだったのではないでしょうか。

平成9年9月1日、棟田武道館、開館。開館式には柔道の吉田秀彦さんもお祝いに駆けつけてくださいました。48歳の私は、日中は警察学校で警察官の卵たちを指導し、夕方からは武道館で子どもたちを指導。

開館翌年の平成10年から、棟田武道館は県代表として5年連続全国少年柔道大会に出場し、平成12年には開館3年目にして全国優勝を果たす快挙を成し遂げました。我が息子はインターハイ優勝など東京で頑張っている、自分も頑張らないと。母だけでなく、私にもそうした意識がありました。大会出場、好成績の背景には、前道場からの先生、警察官OB、一企業の柔道指導者など、多くの先生方に恵まれたことも大きく、感謝の気持ちでいっぱいです。

しかしながら、強いことのみが目的ではなく、礼節を指導方針の主とし、

棟田利幸
TOSHIYUKI　MUNETA

昭和23年11月1日、松山市西石井出身･在住の68才。柔道家、四国代表として昭和46年から10年連続全日本選手権出場経験を持つ。講道館柔道八段。柔道場・棟田武道館、会長。愛媛県柔道協会では会長などを歴任し、現在は顧問。
柔道家・棟田康幸の父。
市立石井中学校2年、柔道を始める。
県立今治南高等学校へ柔道留学。1年から高校総体メンバーで、3年間県優勝。全国高校総体（インターハイ）団体出場。
日本大学へ進学し、柔道をしながら教職取得を目指す。大学3年で、団体全日本学生大会優勝メンバーに入る。4年生で全日本3位。全日本個人学生選手権は2年連続ベスト8。
昭和46年、大学卒業と同時に愛媛県警察を拝命し、平成21年3月定年退職。勤続38年の多くを後進の柔道指導にあたる。
親交のあった漫画家・梶原一騎原作の「空手バカ一代」に登場する柔道家・雲井代悟は棟田利幸をモデルとしている。
■棟田武道館
住所：松山市西石井6－5－35（石井小学校　北100m）
TEL：089－905－0666（道場）
089－956－5734（事務所・FAX兼）

▲道場にて。棟田利幸さん

練習の始めと終わりには、『我等の誓い』「一、礼儀正しい人になります。一、強くて優しい人になります。一、勇気をもって良いことをする人になります」を唱和しています。

子どもたちにとって一番大事なことは「勉強」をすること。「柔道」で心を鍛え、本当に強い人に宿る優しさをもつ「親孝行」な人となることが大切だと説いています。そのためにも自宅でしっかりと勉強ができるよう、武道館の練習時間は午後5時30分から午後7時まで。子どもたちが間違った方向に進まないよう、まっすぐに伸びていってほしいと切に願っています。

子どもの指導は、「だめだ」と怒るだけではいけません。「いいなあ、いいなあ」とほめながら、「こういうところは直さないといかん」と話すことで子どもはわかってくれます。悪いことをしたときには、きちんと叱りますが。周囲からは、「これだけ試合に勝っているのだから、棟田はきついんだろう」と言われますが、全国大会まで持っていく秘訣は、ほめて育てることで、子どもたちものびやかに成長していきます。

先日も県の個人選手権で当館を巣立った後輩が連覇したニュースが舞い込んできました。柔道と勉強を両立して卒業した子たちがまっすぐに育ち、きちんといい大学へ進んだり、公務員となったり、活躍する選手たちの話を聞くたびに、うれしく、また安堵の気持ちで胸をなでおろしています。

▲棟田武道館

●第39回えひめみかん祭り

県内各地の柑橘30種類以上を一堂に集め愛媛産柑橘の魅力をPR！

愛媛県果樹同志会、愛媛県、ＪＡ全農えひめなどは、１月21日と22日の２日間、松山市のいよてつ高島屋８階特設会場で、『第39回えひめみかん祭り』を開きました。みかん祭りは、柑橘の品種30種類以上を展示・販売する「柑橘王国愛媛」ならではのイベントで、愛媛産柑橘のPR・消費拡大と果樹農業の振興を図ろうと毎年開催しています。

会場では、「愛がいっぱい。みかんがいっぱい。はじける愛顔をあなたに」をテーマに、「果実コンクール」出品柑橘24品種200点の展示販売、同志会員らが説明を交えて、伊予柑・ポンカン・せとか、甘平、紅まどんなや日頃目にすることの少ない品種や加工品の試食販売を実施。来場者は品種の食べ比べを楽しんで、好みの柑橘を購入していました。

新品種の紹介、「ほ場コンクール」優秀園地のパネル展示、ポンジュース蛇口、みかん風味ポップコーンの配布のほか、ステージ上では「愛のオレンジロード」の紹介、みかん早むき大会や柑橘に関するクイズ大会、みかんを丸ごと使った「みかん餅つき」などを実施。愛媛柑橘の美味しさと魅力をPRしました。

▲多くの来場者が詰めかけ大盛況でした

●第39回「えひめみかん祭り果実・ほ場コンクール」

大臣賞に吉井栄信さん（果実）と忽那恵雄さん（ほ場）

愛媛産柑橘の品質向上と果樹農家の生産意欲の高揚に向けて「第39回えひめみかん祭り」果実・ほ場コンクールの結果が、１月21日、「えひめみかん祭り」会場で発表され、農林水産大臣賞（優秀賞）には果実コンクールが吉井栄信さん（ＪＡおちいまばり）の「甘平」、ほ場コンクールでは忽那恵雄さん（ＪＡえひめ中央）の愛媛果試第28号（施設）の園地が選ばれました。

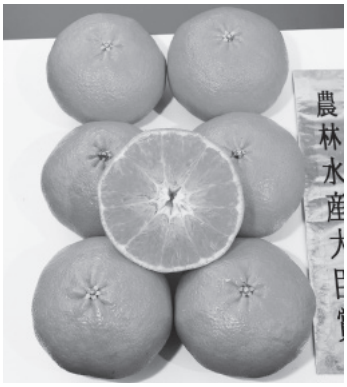
果実コンクールは、県内６ＪＡから選抜された柑橘24品種・200点、ほ場コンクールは、３ＪＡ・９園地の応募がありました。

コンクール入賞者は次の皆さん（敬称略・カッコ内は品種名・ＪＡ名）。表彰式は、３月23日開催の愛媛県果樹同志会大会で行われます。

【果実コンクール】

▽**優等賞＝**一色悟（宮内伊予柑・えひめ中央）、渡部憲明（はれひめ・おちいまばり）、谷本明美（南柑20号・えひめ南）、石田英久（せとか・えひめ中央）、大野アサミ（不知火・同）、山下耕作（今津ポンカン・えひめ南）、長野幸繁（愛媛果試第28号・おちいまばり）、中広光孝（宮川早生・にしうわ）

▽**優良賞＝**重野匡宏（宮内伊予柑・えひめ中央）、二宮喜信（不知火・えひめ南）、石山敦次（太田ポンカン・愛媛たいき）、丸井幸造（甘平・同）、戒能徹（せとか・えひめ中央）、玉井真吾（宮内伊予柑・にしうわ）、二宮奈美（南柑20号・えひめ南）、丸井恒男（不知火・愛媛たいき）、片岡正嘉（太田ポンカン・ひがしうわ）、新谷英治（甘平・えひめ中央）、青木聡（せとか・同）、宮内祥二郎（はるみ・同）、二宮時雄（宮内伊予柑・にしうわ）、寶生芳正（ひめのか・愛媛たいき）、能田英文（不知火・えひめ中央）、宮家浩（太田ポンカン・ひがしうわ）、忽那敬一（甘平・えひめ中央）、石丸孝義（宮内伊予柑・同）、岩城弘明（南柑20号・にしうわ）、近藤昭太郎（宮内伊予柑・おちいまばり）、久重儀之（清見・にしうわ）、河野悦徳（媛小春・えひめ南）



▲農林水産大臣賞を受賞した吉井さんの「甘平」

【ほ場コンクール】

▽**優等賞＝**山本剛（せとか〈施設〉・えひめ中央）、菊池安洋（南柑20号・にしうわ）

▽**優良賞＝**城戸文男（愛媛果試第28号〈施設〉・えひめ中央）、石山敏郎（あいさん・おちいまばり）

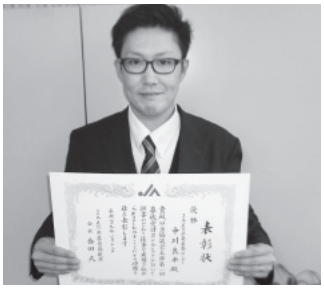
●第１回ＪＡ愛媛葬儀受付コンテスト

葬祭サービスレベル向上に向けて初のコンテスト開催~中川良平さん（ＪＡえひめ南）が優勝~

ＪＡえひめ葬祭協議会（事務局：ＪＡ全農えひめ生活資材課）は、１月18日、砥部町のＪＡ全農えひめ生活センターで、「第１回ＪＡ愛媛葬儀受付コンテスト」を開催しました。審査の結果、中川良平さん（ＪＡえひめ南葬祭センター）が優勝しました。

同コンテストは、ＪＡ葬祭担当者のサービスレベルの高位平準化を図るため、ＪＡとＪＡ関連会社の担当者を対象に初めて開いたもので、ＪＡ・関連会社から選抜された担当者３人が出場。審査員と見学に来たＪＡ担当者等計15人が参加しました。

競技は、喪家の状況を再現した会場で、競技者が喪主の家を訪問して葬儀の打ち合わせを終えて玄関を出るまでの流れを実演。身だしなみや態度・接遇等のマナー全般のほか、質問や各種相談対応、料金プラン等の説明や葬儀見積書の作成・内容など応対内容を総合的に評価しました。



▲優勝した中川さん

ＪＡ葬祭協議会運営委員会の篠森均委員長（ＪＡ周桑生活部長）は、「コンテストを通じて、競技者だけでなく、ＪＡ担当者全体のレベルアップにつなげよう」と呼びかけました。

●愛媛県椎茸同志会

地元消費者に愛媛の原木乾椎茸をアピール

愛媛県椎茸同志会とＪＡ全農えひめ野菜花卉課は、１月９日、松前町のエミフルMASAKIで開催された「えひめマルシェ」（えひめ愛フード推進機構主催）に参加し、原木栽培の乾椎茸と生椎茸の販売、料理レシピの提案と試食PRを行いました。

販促イベントには、同志会の会員有志で組織する「げんぼく55（ゴーゴー）会」のメンバー、ＪＡ・日本きのこセンターの職員ら15人が参加。乾椎茸つかみ取りやビッグサイズの原木生椎茸を「大厚肉椎茸」として販売したほか、乾椎茸で調理した「山あわび飯」の販売、「しいたけピザ」「椎茸の山揚げ」等料理レシピの提案と試食宣伝を実施しました。完売商品も出るなど、地元消費者に原木椎茸の魅力をアピールしました。

●「愛媛Queenスプラッシュ」

今年産初出荷にあたり上甲副知事を表敬訪問

愛媛県のオリジナル品種「甘平」の中で果実外観が特に優れた最高品質のブランド「愛媛QUEEN（クイーン）スプラッシュ」の今年産初出荷にあたり、１月19日、ＪＡ全農えひめの関岡光昭副本部長と愛媛いよかん大使の玉井佳奈さんらが、愛媛県の上甲俊史副知事を表敬訪問し、販売スタートと今年産の生産概況について報告しました。

試食した上甲副知事は、「プチプチした食感で味が濃くておいしい。愛媛の代表ブランドに育ってほしい」と話していました。

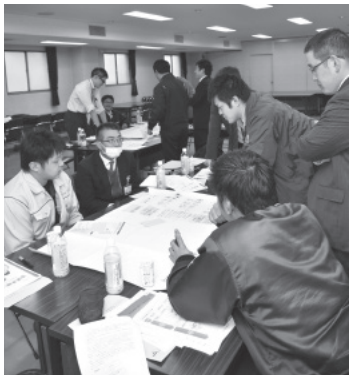
「愛媛Queenスプラッシュ」は、愛媛県が命名し、平成27年産から取り組みがスタートしています。ＪＡ全農えひめでは、今年産は、「甘平」出荷計画量1,200t（前年比114％）の約１％にあたる10ｔ程度の出荷を見込んでいます。

▲「愛媛Ｑｕｅｅｎスプラッシュ」を手に笑顔の上甲副知事（中央）と関岡副本部長（右）。いよかん大使の玉井さん

●平成28年度ＴＡＣ研修会

「事業承継ブック」の活用に向けグループワーク実施

　ＪＡ全農えひめ営農支援課は、TAC活動の充実・ステップアップに向けて、１月26日、松山市のＪＡ愛媛別館で、事業承継に関する「平成28年度TAC研修会」を開きました。
　TACは、「とことん会ってコミュニケーション」を合言葉に、地域農業の担い手に出向くＪＡ担当者の愛称です。ＪＡのTACなど19人が参加した今回の研修会では、TACが事業承継に関与していく重要性を確認し、ＪＡ全農の作成した「事業承継ブック」の内容説明や同ブックの活用に向けてグループワーク等を行い意見交換しました。
　県内の家族経営農家数は2000年以降58％減少。現在後継者がいるのは44.7％にとどまっており、法人経営も過去５年間で30件減少しており、TACを中心に事業承継を進めていくことが重要となっています。
　グループワーキングでは、「事業承継ブック」の活用に向けて、グループ別に課題ややるべきことの洗い出し、具体的解決策を検討し、発表を行いました。



●㈱えひめ飲料「もらってうれしい愛媛のいいもの♪プレゼント」抽選会

応募ハガキ2万6,452通の中から当選者1,000人選ぶ

　㈱えひめ飲料は、１月19日、松山市安城寺町の本社で、オリジナル今治タオルセットとPOM商品詰め合わせが当たる「もらってうれしい愛媛のいいもの♪プレゼント」キャンペーン抽選会を行い、髙原茂社長らが、２万6,452通の応募ハガキの中から当選者1,000人を選びました。
　同キャンペーンは、「ポンジュース」とそのファミリー商品（アップル・グレープ・フルーツミックス）の定着・拡販をめざし、昨年10月上旬から12月末まで実施。北海道から沖縄まで全国から応募があり、期間中のキャンペーン対象商品の販売数量は前年比113％と伸長しました。同社は「ファミリー商品が浸透・定着してきており、こうした取り組みを通じてPOMブランドのファン拡大につなげたい」と話していました。
　応募ハガキには、「蛇口をひねってポンジュースを飲むのが夢です」「朝ごはんの時に子どもたちが喜んで飲んでくれるので助かっています」「ゼリーにしても美味しいです」「今治タオルは使ったことがないので当たるといいな」などの声が寄せられました。

▲髙原茂社長（手前中央）らが当選者選ぶ

●第30回ひめライス杯南海放送レディス卓球大会

スポーツを通じて「ひめライス」をＰＲ！

　「第30回ひめライス杯南海放送レディス卓球大会」が、１月21日松山市の県武道館で開かれ、過去最高となる229組・458人がエントリーして熱戦を繰り広げました。
　同大会は卓球女子ダブルスの大会では県内最大規模を誇り、今回は16歳から84歳までの選手が出場し、レベル別に５クラスに分かれ、日頃の練習成果を競いました。
　最もレベルの高いAクラスを制した森まりな・武智瞳ペア（所属＝フォーネット、伊予市・松山市）は、「この大会では初めてペアを組みましたが、楽しかったです。仲が良いのでペアリングの勝利。ひめライスをいつも食べて元気をもらっているので、来年のひめライス杯でも力を出し切りたい」と笑顔を見せていました。
　㈱ひめライスは、スポーツを通じて愛媛のお米『ひめライス』をPRしようと同大会を応援。参加賞として無洗米『あらうまい！』愛媛県産コシヒカリ１kgを提供したほか、副賞として、各クラス優勝の選手に「あらうまい！愛媛県産コシヒカリ」各10kg、３位以内の選手に『あらうまい！』各５kgを贈ったほか、30回記念として、抽選で参加者３人に無洗米「あらうまい！」３種セット30kg分をプレゼントしました。

▲副賞のお米を手に喜ぶAクラス優勝の森（右）・武智ペア

●ＪＡグループ愛媛

魅力増す愛媛農業・農村の実現に向け、担い手組織と意見交換会を開催

ＪＡグループ愛媛は、１月11日、松山市のＪＡ愛媛で、県内６つの担い手組織と意見交換会を開催しました。担い手組織からはＪＡグループの今後の取り組みに期待の声が出されるとともに、魅力増す愛媛農業・農村の実現に向けて双方が連携を強化していくことを申し合わせました。

意見交換会には、愛媛県農業法人協会、愛媛県認定農業者連絡協議会、愛媛県農業指導士会、愛媛県青年農業者連絡協議会、ＪＡ愛媛青壮年連盟、ＪＡえひめ女性組織協議会とＪＡグループ愛媛の代表など約40人が出席。意見交換では、ＪＡ愛媛中央会、ＪＡ全農えひめ、ＪＡ愛媛県信連、ＪＡ共済連愛媛からＪＡグループ愛媛の自己改革の説明や担い手への事業提案を行いました。

ＪＡ全農えひめは、関岡光昭副本部長が、生産資材に関する事業提案、「ＪＡグループ愛媛の米事業の対応方向～マーケットインに基づく生産から販売まで一貫した系統独自のバリューチェーン構築の考え方」、「農業者所得増大チャレンジ事業」の取り組みを説明。生産資材の事業提案では、肥料農薬価格調査結果、土壌診断や担い手肥料直送予約対策、農薬超大型規格担い手直送などの対策を説明しました。

●㈱えひめ飲料

「ＰＯＭえひめ逸品柑橘 愛媛はるみサイダー」発売！

㈱えひめ飲料（本社松山市）は、「POMえひめ逸品柑橘　愛媛はるみサイダー」（410mℓペットボトル）を２月６日全国一斉発売しました。

同商品は、愛媛県で栽培が盛んな逸品柑橘の美味しさにこだわった『POMえひめ逸品柑橘』シリーズの第６弾商品で、全国生産量の約３割を占める愛媛県産の「はるみ」果汁を使用した炭酸飲料。ジューシーで爽やかな甘みが楽しめます。

「はるみ」は、「清見」と「ポンカン」を交配して誕生した品種で、「不知火」の妹。

ラベルには、カタカナで品種名を大きく表示。愛媛県のイメージアップキャラクター「みきゃん」が柑橘を手に持ったデザインで「愛媛産」を前面に打ち出しています。

希望小売価格は152円（税込）。「POM NET SHOPまじめな宅配便」（電話0120－591－516）でも販売しています。

●ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場

「よしもとお笑いライブ」が大盛況でした！

笑いで地域を元気にしようという㈱ファミリーマートと吉本興業㈱の地域密着プロジェクト「いっしょに、笑顔。“ちいきイキイキ プロジェクト”」のイベント「よしもとお笑いライブ」が、１月29日、東温市の「ファミリーマート・全農ふれっしゅ広場」で開かれ、２重３重の立ち見も出るほど大勢の方が詰めかけ大盛況でした。

当日はフルーツポンチ、2700、キャンパスボーイの３組が来店。１日２回各１時間程度開催された「お笑いライブ」は、抽選でサイン色紙の配布や記念撮影も行われ、笑いと歓声に包まれました。

同プロジェクトは、地域の方々が笑顔になれる“コミュニティの場”として店舗スペースを活用して地域の活性化に貢献しようと、ファミリーマートが吉本興業の協力を得て取り組んでおり、愛媛県内では初めての開催でした。

READERS 通信

●1月号新春鼎談（ていだん）の中で菅野さんが「個々の農家に合ったきめ細かな生産指導や経営支援、農家の育成に向けた支援、農産物の販売・消費宣伝などを通じて農家が経営できるよう再生産可能な所得の確保・最大化に貢献することは、JAの役割も変わらない」とおっしゃっていることは、正に農家が求めていることであり、JA・全農改革に向けて、一歩一歩実践していってほしいと思います。
（大洲市・大本　昭裕さん）

●新春鼎談を読んで。こういった記事を読んでいると、非常に勉強になり、よくわかります。小越県本部長はあまり変わっていないですね。先般開催された第39回えひめみかん祭りで、私の友人が清見タンゴールで入賞しました。とてもうれしく思います。
（西予市・三木江　正治さん）

●新春鼎談で清家さんが、「農業はウソをつかない。与えた愛情の分だけ、愛情が成果として返ってくる」という農家の言葉を紹介されていましたが、愛情と苦労が詰まった食べ物は超おいしいです。「各直売所で生産者が消費者と会話したり交流活動を通じて農業やJAが身近な存在になってきた」全くその通りです。直売所こそ私たち生産者の活力になり、地産地消や地域農業を支える原動力になっています。また主人は地元の「周ちゃん広場」にプロ顔負けの野菜や里芋を出荷して元気に楽しんでいます。
JA周桑女性部は、部員200名が参加して第2回運動会を行います。まだ運動には自信がありそうでなさそうで心配。それに備えて只今ストレッチ体操、ジョギングに取り組んでいる毎日です。何より健康第一、今年も頑張ります。
（西条市・髙橋　千代美さん）

●新春鼎談に出ていた南海放送のキャスター・清家さん、とてもかわいらしい人ですね。いつもニュース見ています。TVを通してもっとたくさん愛媛の農産物をアピールしてほしいですね。頑張れ！愛媛の可能性は無限大。
（松山市・山田　祥江さん）

●1月号の表紙を拝見し、子どもの頃を思い出しました。お正月といえば凧あげ、羽根つき、コマまわしなど、家外で楽しくはしゃぎまわったものでした。今の子どもたちにもそのころの楽しさを味わわせてあげたい気もします。
生産者の顔が見えるPR、生産現場で農家が出て紹介すること、たしかにインパクトがあると思います。私が勤務するJAで、NHKのレンコン取材がありました。報道が終わると、すぐさま多数の問い合わせがありました。生産者の顔、そしてテレビの力の強さを感じました。
（今治市・阿部　徳子さん）

●エッセー「久米にまつわる物語」。泉谷局長は大阪府出身にもかかわらず、赴任された愛媛で地元の人に歴史を発信していただき、愛媛のその研究には熱いものが感じられました。
（松山市・大西　初美さん）

●はじめてのみかんむき。東京新宿の幼稚園に通う親戚の家へ行っていたとき、お迎えに行くと「○○日は愛媛県のおみかんをおやつに食べます…」そのようなことがボードにあったと記憶しています。このキャンペーンだったんですね。3か月ほど東京暮らしをしました。近くのスーパーには九州・愛媛などいろんな県のみかんが肩を並べていました。もちろん愛媛県産を買いました。
（西予市・毛利　徳子さん）

●イベント情報

「ファーマーズマーケットいよっこら」が3月リニューアルオープン！

～3月19日・20日にイベント開催～

JAえひめアイパックス㈱の「ファーマーズマーケットいよっこら」（伊予市下吾川）が、売場面積を約1.4倍に拡大し、惣菜・鮮魚売場の充実やイートインコーナーを設置してリニューアルオープンします。

3月11日にプレオープンし、3月19日と20日の2日間は、リニューアルオープンイベントを開催します。

19日からのリニューアルオープンイベントでは、「せと風ポークの豚汁サービス」（先着300名様）、「餅つき大会」「愛の葉Girlsミニライブ」のほか、25,000円分の旅行券、牛肉などが当たる「お楽しみ抽選会」（1,456円以上お買い上げのレシート1枚で1回抽選）など楽しい催しも盛りだくさんです。皆様のご来店をお待ちしています。

※準備のため3月1日と10日は臨時休業します。

今月のクイズ

㈱えひめ飲料は、2月6日、『POMえひめ逸品柑橘』シリーズの第6弾商品を発売しました。この商品に使われている柑橘の品種名は？「清見」と「ポンカン」を交配して誕生した品種で、「不知火」の妹です。

「○○○○」

プレゼント　クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法　折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り　平成29年4月17日（当日消印有効）

発表　「あぐり～ど」5月号で発表します。

当選者発表　1月号の答えは「39回目」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10人の方に図書カード1,000円分をお送りします。

梶原　雍之さん（今治市）　瀬村　美緒さん（松山市）
若原のぶ子さん（西条市）　山口　博美さん（新居浜市）
稲田　涼香さん（松山市）　上田トクミさん（八幡浜市）
村上　瞳さん（今治市）　小倉　朝美さん（松山市）
川上　壮佑さん（東温市）　越智　節美さん（今治市）

編集後記

★愛媛県が開設している「愛媛かんきつ情報缶」では、県独自の統計調査として県内で収穫されている柑橘の品目数が48品目で日本一と紹介されています。
30種類上の柑橘を展示・販売した「えひめみかん祭り」は、まさに愛媛ならではのイベント。みかん祭りでは、子どもたちには「紅まどんな」「甘平」「伊予柑」等の品種当てクイズも行われましたが、皆さんは何種類くらい認識できるでしょうか？かんきつ類が豊富なこの時期に一度試してみてください。
（正直）

NOW NOW COOKING

今月の素材 レタス

▶（右）レタスの肉巻きフライ、（中）レタスと桜エビの塩炒め、（左）レタスとあさりの酒蒸し

まちがいのない選び方
巻きがゆるくて、軽いもの

指導／学校法人愛媛学園　（愛媛調理製菓専門学校）大佐古 正子先生

レタスとあさりの酒蒸し

〈材料・４人分〉　※1人あたり約111kcal

レタス	1/2個
アサリ	200ｇ
生ワカメ	80ｇ
ベーコン（厚切り）	1～2枚(約50ｇ)
ニンニク（スライス）	1かけ
酒	50cc
バター	10ｇ
醤油	小さじ1/2

〈作り方〉

① レタスは大きめにちぎる。ワカメは食べやすい大きさに切る。ベーコンは1㎝幅に切る。
② フライパンにベーコンを入れ、弱火で炒め、油が出てきたらニンニクを炒める。アサリと酒を加えて中火にし、フタをして蒸し煮にする。
③ アサリの口が開けば、ワカメとレタス、バター、醤油を加え、さっと火を通す。

レタスと桜エビの塩炒め

〈材料・４人分〉　※1人あたり約126kcal

レタス	1/2個
桜エビ	10ｇ
タケノコ	1/2本(約100ｇ)
卵	３個
サラダ油	大さじ１
塩・コショウ	少々
ゴマ油	大さじ１
輪切り唐辛子	３～５個

〈作り方〉

① レタスは大きめにちぎり、タケノコは短冊切り。卵は割りほぐし、塩・コショウをしておく。
② フライパンで桜エビを乾煎りし、香りを出して、一旦取り出す。
③ フライパンにサラダ油を熱し、卵を炒めて取り出す。ゴマ油と唐辛子を加えて熱し、タケノコを炒め、桜エビと取り出した卵、レタスを加えて炒め、塩・コショウで味を調える。

レタスの肉巻きフライ

〈材料・４人分〉　※1人あたり約324kcal

レタス	８枚
豚モモ肉のスライス	８枚
スライスチーズ	８枚
塩・コショウ	少々
小麦粉	大さじ４
カレー粉	大さじ１
卵	１個
パン粉	１カップ
揚げ油	適宜
レモン（くし切り）	1/2個

〈作り方〉

① 豚肉は広げて、片面に塩・コショウをふる。
② チーズは縦４等分に切り、重ねる。
③ ①の豚肉の幅にあわせ、その上にレタスを折り重ねる。②を芯にして、しっかり巻く（８本）。
④ 小麦粉とカレー粉を混ぜ合わせ、③にまぶし、溶き卵、パン粉の順につける。
⑤ 170℃の揚げ油で、④を揚げる。
⑥ ⑤を食べやすい大きさに切り、皿に盛りつけ、レモンを添える。

2017
3月号
No.987
●発行／全農愛媛県本部　〒790-8555　松山市南堀端町2番地3
●編集部／総務課☎(089)948-5323　●編集人／高井　雄二
●印刷／コープ印刷㈱

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した植物油インキを使用しています。

この冊子は再生紙を使用しています。